

西表島フィールドワークの事前学習 高尾山で生物観察

6月中旬、西表島研修（7月）に備えてフィールドワークの練習のために西表島メンバー8人と高尾山へ出向いた。溪流沿いの登山道を歩いていたら早速1年のユウセイが何か見つけた。手には**超極太ミミズ**が！「すげー！でっか！」とみんなでツンツンつつく。ユウセイはこんな巨大ミミズは平気で触るくせに、ゴミムシを捕まえた時は「その虫臭いよ」と教えてあげたら、**ものすごい勢いで放り捨てて悪態をついていた**。ミミズは良くても臭い虫はダメなのね。

少し進むとたくさんの倒木があった。うちの生徒たちは、倒木や石を見つけるや否やひっくり返しまくるという、もはや生物班では“常識”になりつつある習性がある。案の定、倒木起こしタイムが始まった。「**いいの見つけました**」と言うソウスケの手には**オオゴキブリ**が。ゴキブリと聞いただけでNGな人はたくさんいると思うが、山にいるゴキブリは**分解者**なので、生態系には欠かせない重要な生物だ。人家に出る数種のせいでG界限全体が嫌われているのは可哀想だ。このオオゴキは都会でよく見るやつ（クロゴキ、チャバネ）とは全く違う重厚感があって**とてもカッコいい**。「でもやっぱ、こいつの写真はいきものの記で使ったら怒られるかなー」「カッコいいんですけどねえ」と現地では話していたが……すみません、使っちゃいました。

「**あ！ヘビだ！**」向こうの方で登山客がそう叫んでいた。それを聞いてソウスケが即座に駆けつける。ばくもヘビ見たさについていく。「あっち逃げちゃったよ」と教えてもらおうと、ソウスケが斜面を駆け上がって捕獲に向かった。「え？え？！」と周囲が驚く中、何の造作もなく**あっさり捕まえた**。みなさんあいた口が塞がらない様子だった。都科技生、やばい人たちだと思われてるんだろうなあ…。アオダイショウだね～なんてほのぼの愛でいたら、ぼくらの横を通る人たちが「え？！ヘビ？！」とお手本のような二度見をしてきて、気づけば人だかりが。**ヘビを持って棒立ちする高校生、それを取り巻く大人たち**。なんともシュールな光景になって笑ってしまった。怖いもの見たさなのだろうか、ひい～とか言いながらも皆さん結構ヘビに触りたがる。人間の好奇心って面白いね。

ひと通りアオダイショウを堪能した後、倒木のところまで戻ってみると、こちらはこちらで盛り上がっていて、海外からの観光客がギャラリーとして集まっていた。「**先生！これ美味しそう！**」そう言うユイの手にはカミキリムシの幼虫が。外人さんたちも、虫を見て「美味しそう」と言う女子高生を見て大ウケしてる。ユイの目は完全に食材を見る目だ。幼虫をじっと見つめていて、なんだか**ナマでいきそう**な気がしたので瞬時に「ナマはやめとけ！」と止める。いや待て、ナマじゃなきゃいいのか？！と自問。まったく、危なっかしい連中だ。「でもなあ…家の鍋は絶対に虫の調理に使うなと親に言われてるんです」とユイがこぼす。…そりゃそうだろう。

改めて思うけど、**やっぱりうちの生徒たち、オモロイ**。今年の西表島参加者は、あまり面識のないメンバーが多くてちょっと心配だったが、楽しい旅になりそうだ。（この人たちを制御しなきゃいけない大変さを分かっていたただけだろうか。）



ヘビに群がる人

怖いもの見たさなのか、ソウスケがアオダイショウを見つけたら道行く人たちが集まって撮影会が始まった。子供も大人もアオダイショウを触って喜んで(?)いた。



ソウスケが捕まえたアオダイショウ 2026年6月14日 高尾山
アオダイショウは無毒だが、毒のある別種と見間違えると危険なので、詳しくない人は無闇に触らない方がよい。



ユウセイが見つけた極太のミミズ

気持ち悪がられることが多いが、ここまで大きいと逆に興味がわく。



倒木の下で見つけたオオゴキブリの幼虫

森いるGは分解者であり、生態系に非常に重要。重厚感があってカッコいい。



ユイが美味しそうと言っていたカミキリムシの幼虫

実際かなり美味しいらしいがどうなのだろう。ユイは持ち帰っていたが食べたのかは知らない。